

共生・公正・創造



# ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合  
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号  
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290  
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



## “テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

### 「マングローブ」ダイジェスト版 第2回

あの「週刊現代」連載記事が【マングローブ】という本になった。本紙は筆者（西岡研介氏）の了解を得て、『謎に包まれた非合法集団とJR東日本の抜き差しならぬ関係』をダイジェスト版として紹介することとした。

## 警察庁が認めた二つの秘密組織

1996年8月10日早朝、警視庁公安部は極秘裏に、東京都足立区にあった10階建てマンション8階の1室を家宅捜索した。この革マル派の非公然アジトは、革マル派党中央指導部直轄のアジトで、同派にとって極めて重要な拠点だった。ここは後に「綾瀬アジト」と呼ばれる。そしてこの綾瀬アジトの摘発によって初めて、JRに巣食う二つの革マル派の秘密組織が存在することが明らかになったのだ。

その一つを「トラジャ」、もう一つを「マングローブ」という。トラジャとは、インドネシア・スラウェシ島の少数民族の名前だ。そしてマングローブは熱帯地域の河口の潮間帯に群生する植物の総称である。それらの名前を冠した、この二つの組織はいったい、何を目的にして作られたものなのか。

「松崎は、国鉄分割民営化前年の昭和61年ごろ、国鉄の組合の中でも過激な闘争をすることで知られた動労の組合員数人を、職業革命家として育てるべく、革マル派の中央に送り込んだ。そして1年後には、これらのメンバーを『トラジャ』と呼ぶことにしたのです。トラジャの任務は、JRはもちろんのこと、教育界や自治体、マスコミなど各界に浸透した、革マル派活動家を指導することです」（公安当局関係者）

綾瀬アジトの摘発によって、革マル派の中に「JR委員会」という組織が存在することも明らかになった。そして、このJR委員会に所属する約150人のメンバーが「マングローブ」というコードネームで呼ばれていたのだ。

「マングローブは、松崎がJR各社の組合員に革マル派思想を浸透させることを目的に作った組織です。メンバーの大部分が、トラジャと同じく、動労出身の組合員です。警視庁公安部は、綾瀬アジトから押収した大量の暗号文書を解読した結果、約150人いるとされるマングローブのうち約100人を特定したのですが、全員がJR総連の関係者で、うち6割が東労組の幹部や専従、組合員で占められていました。彼らは今でも、東労組をはじめ、JR総連傘下单組の内部に作った革マル派組織の防衛と、さらなる拡大を目指し、活動を続けているのです」（公安当局関係者）

まるで多足類生物のごとく、熱帯地域の河口の泥地に根を張りめぐらせる「マングローブ」。そのマングローブの根のように、配下の革マル派組合活動家を、JRの隅々まで浸透させてやる……。松崎が、JR内の革マル派秘密組織につけたコードネームからは、そんな彼の目論見が透けて見えるようだ。

【マングローブ（講談社）P.32～P.34】